

○小林委員 私からは、観光振興について五問お伺いをさせていただきます。

東京を訪れる旅行者にとって、観光に関する情報を対面で入手できる観光案内所は重要な存在であります。外国からの旅行者の増加に伴い、観光客のニーズも多様化する中、都が運営する観光情報センターの今後の役割は大変重要なものになってくると思います。

実は最近、そういうことを実感する出来事がありました。先日、私が長年、文化芸術振興についてご指導いただいております歌舞伎役者の方が、国内外の方々に歌舞伎の魅力を知ってもらい、楽しんでいただけるようイベントを企画されました。

イベント当日は私も参加しましたが、羽田空港の東京観光情報センターにもこのイベントのチラシが置かれておりまして、そこで、このイベントを知った外国人の方が実際に鑑賞に来られたとのことでありました。

このように、外国人に対しては、旅行者に関心の高いイベントなどの紹介を効果的に行い、集客に結びつけていくことは、今後も、大事な課題であると思います。そのためにも、東京観光情報センターにおける観光案内機能の充実強化が重要であると考えますが、昨年度の都の取り組みについてお伺いします。

○鈴木観光振興担当部長 都では、東京観光情報センターを設置し、国内外から東京を訪れる旅行者に対して、観光スポットやイベントなど、さまざまな情報を多言語で提供しております。

平成二十九年度は、多摩地域で初となる東京観光情報センターを立川に開設するとともに、都庁の観光情報センターにおいて、パンフレットの紹介コーナーの充実といった、利用者がより使いやすくなるようリニューアルを行うなど、全部で五つのセンターを運営いたしました。

また、各センターに日々寄せられる問い合わせの内容や傾向などを分析、共有することにより、問い合わせへの迅速な対応や、利用者のニーズに応じたプランの提案を行う際の参考とするなど、サービスの向上にも努めました。

これらの取り組みにより、昨年度は、五つのセンター全体で約百十二万人の方に利用をいただきました。今後も、引き続き案内機能の充実を図ってまいります。

○小林委員 東京観光情報センターは、まさに外国人旅行者にとっては、おもてなしの窓口ともなる場所でもありますので、機能の充実、豊富な情報の蓄積とともに、心のこもった対応をぜひともお願いしたいと思います。

次に、夜の観光についてお伺いいたします。

訪日外国人旅行者の数は順調に増加していますが、一部の外国人旅行者からは、夜間の楽しみに対する不満の声というものもございます。

都議会公明党は、本年の第一回定例会の代表質問で、治安のよい東京の夜間観光を、食、自然、歴史に続く第四の柱に位置づけ、その魅力を海外に向けてわかりやすく発信すべきと提案をいたしました。治安のよい東京の夜間の観光を振興することは、さらなる外国人旅行者の誘致につながるものと考えます。

都では、昨年度から、東京の夜の観光の魅力を発信する取り組みとして、ナイトライフ観光の構築事業を開始しましたが、その意義と取り組み状況についてお伺いいたします。

○小沼観光部長 東京には、夜間に安心して楽しむことができるさまざまな観光のコンテンツが存在しており、この情報を多くの外国人旅行者に対して幅広く伝えることができれば、さらなる外国人旅行者の誘致につなげることができます。

このため、都は、平成二十九年年度から新たに、外国人旅行者が夜の東京の魅力を体験できる六つのモデルルートを作成し、海外に向けて情報を発信いたしました。

ルートの作成に当たりましては、東京タワーや東京湾の夜景観賞、秋葉原や中野、新宿ゴールデン街でのサブカルチャー体験など、外国人旅行者に人気が高いテーマを設定しまして、鉄道等を利用して効率的に周遊できるスポットを選定してございます。

このモデルルートに、欧米豪や東アジアの六カ国を対象としまして、海外在住のインフルエンサーと在京海外向けメディアを招聘いたしまして、延べ約六千万人に夜の観光の楽しみを発信いたしまして、新たな外国人旅行者の誘致につなげております。

○小林委員 昨年の公営企業会計決算特別委員会で、港湾局に質疑をした際にも触れましたが、「ゆりかもめ」に乗って見る臨海副都心の夜景が未来都市のようで大変にきれいで、そうした夜景が動画で撮影されてユーチューブに投稿されて、海外の方にも大変注目されているとのことであります。

東京の夜の魅力は、まだまだ可能性を秘めていると思いますので、さまざまな視点で、さらに夜の東京の魅力を発信していただきたいと思います。

次に、国内観光という点で、被災地応援ツアーについて伺います。

東日本大震災発災直後、都議会公明党は、岩手、宮城、福島の前被災三県を訪れ、東京都が果たすべき被災地支援を現地調査しましたが、その課題の一つが、被災地での消費喚起、観光振興につながる支援であり、都議会公明党は、岩手、宮城、福島への観光を応援する提案をし、実現したのが被災地応援ツアーであります。

そこで、平成二十九年年度の被災地応援ツアーの実績について伺います。

○鈴木観光振興担当部長 都では、東日本大震災による被災地復興支援のための緊急対策の一環として、被災地応援ツアーを実施しております。

昨年度は、宿泊一万七千九百七泊、日帰り四千九百二十八人分、教育旅行三十一件について、その費用の一部を助成いたしました。その結果、二十九年年度末までに、宿泊では約十七万九千泊、日帰りでは約六万一千人分、教育旅行六十五件を助成し、現地での消費を喚起するなど、観光振興による復興に力を入れて取り組みました。

○小林委員 都議会公明党は、震災以降、毎年被災地を訪れまして、復興状況の調査に取り組んでおりますが、被災地は、震災前の観光客入り込み数までにはいまだ至っておらず、風評被害に苦しんでいる現状が続いております。ぜひとも引き続き応援ツアーの実施に取り組んでいただきたいと思います。

次に、アニメを活用した観光振興について伺います。

アニメなどのコンテンツは、クールジャパンとして海外でも注目され、観光資源として活用することは今や当然のことといえます。各地域に点在するアニメ資源を活用し、それらを点ではなく線として、さらに面として捉えて、国内外の方々にアニメの魅力を発信し、観光客の誘致につなげていく

ことが重要と考えます。

都では、二十九年度からアニメ等コンテンツを活用した誘客促進事業を実施し、外国人に関心の高いアニメなどのコンテンツを活用して観光振興に取り組む区市町村や観光協会などが行う事業への支援を開始いたしました。その実績についてお伺いいたします。

○小沼観光部長 都は、区市町村や観光協会などを対象に、アニメや映画等のコンテンツを観光資源として活用し、国内外の旅行者の誘致につなげる取り組みへの支援を実施しております。

昨年度は、中野区と杉並区が連携して行いました日本アニメ生誕百周年にちなんだ展示やワークショップ、キャラクターショーなどの開催のほか、葛飾区におきましては、海外でも知名度の高いアニメを活用したデジタルスタンプラリーの実施や、小金井市におきましては、観光関連団体が行った地元のオリジナルキャラクターを活用した駅前観光案内看板の設置など、十六事業に対して補助を行いました。

○小林委員 また、アニメを活用した観光振興においては、アニメ財産の活用も大切であります。

私は、平成二十八年第一回定例会の一般質問で、都がアニメアーカイブ事業として保管しているアニメ資料を広く都民に公開していくべきと提案し、アニメ関連の資料展示を実施していただくこととなりました。

そこで、アニメ関連の資料展示の平成二十九年度の取り組み状況についてお伺いいたします。

○小沼観光部長 都では、アニメのフィルムやセル画、企画書などの資料の散逸を防ぐため、約五万点のアニメーション制作に関する資料を保管してございます。

こうした貴重な資料を観光資源や人材育成に役立てるために、人気アニメのセル画や原画とともに、今と昔の制作工程を比較、紹介したパネルとあわせて展示することで、アニメの魅力を紹介しております。

昨年度は、当時、秋葉原にありました東京アニメセンターでの展示を行いまして、約一カ月の実施期間中、一万六千百十三人の来場者がございました。

また、池袋で開催されました東京アニメアワードフェスティバルや、東京ビッグサイトでのアニメジャパンといったイベントにおいて展示することで、多くのアニメファンなどにPRを行いました。

○小林委員 ありがとうございます。

この資料展示の取り組みについては、実現まで迅速に進めていただきまして大変に感謝をいたしております。今後も、アニメファンの方々を初めとして、貴重なアニメ資料に触れる機会として充実をさせていただくようお願いしたいと思います。

最後に、質問はいたしません。一点要望をさせていただきたいと思っております。

かつて一般質問でも取り上げましたが、東京の観光公式サイト、GO TOKYO のホームページには、トーキョー・アニメ&マンガマップというコンテンツがありますが、区市町村や民間事業者とも連携をとり、このコンテンツの内容を一層充実させていくべきと提案をさせていただきました。

本委員会の質疑に当たりまして、改めて確認をいたしましたが、例えば、このコンテンツの中にイベントという項目がありまして、日本最大級のアニメイベントに行ってみようというように書いてありました。そこをクリックすると、東京国際アニメフェア二〇一三が紹介されているページに行くんですね。二〇

一八ではなく二〇一三です。

今は、東京アニメアワードフェスティバルやアニメジャパンというイベントが開催されていると思います。余りに古い情報なので、私のパソコンが最新の情報を読み込んでいないのではないかと錯覚するぐらいで、何度もホームページの再読み込みを行いました。更新日二〇一三年一月という表記は変わりませんでした。

また、まちにあるキャラクター像を紹介するページもあります。そこで紹介されているのは、世田谷区のサザエさん一家の銅像、葛飾区のこちら葛飾区亀有公園前派出所に登場するキャラクターの銅像、調布市のゲゲゲの鬼太郎の妖怪たちのモニュメントの三カ所であります。

しかし、アニメのまちとして自負をしております私の地元練馬区のものには紹介はされていないんですね。練馬区では、平成二十七年に、アニメのまち練馬を象徴する場所として、西武池袋線大泉学園駅北口に大泉アニメゲートという歩行者道路を設置しました。ここには、練馬区ゆかりのキャラクターとして五体の銅像が設置されております。

(資料を示す)ちょっと小さくて見づらいかもしれないんですけども、一つが鉄腕アトムです。もう一つが銀河鉄道999に出てくるメーテルと、それから星野鉄郎ですね。次が、あしたのジョーの矢吹丈の銅像ですね。もう一つが、うる星やつらに出てくるラムちゃん、これの銅像。この五体が設置をされております。

また、練馬区ゆかりのキャラクターと一緒に写真が撮れるスマホ専用の AR アプリも展開をしております。大泉アニメゲートに来てこのアプリ起動して写真を撮ると、ここでしか撮れない記念写真が撮れるようになっています。

ジャパンアニメーション発祥の地でもある練馬区のような資源が紹介されていないのは、まことに残念な限りであります。

トーキョー・アニメ&マンガマップは、最後の更新の二〇一三年一月から五年間、時がとまっております。国内外のアニメファンのためにも、そして、アニメを重要な観光資源としてさらに活用していくためにも、時計の針を動かして、内容の充実、強化に取り組んでいただくよう改めて強く要望いたしまして、質問を終わります。